

## 特集：拡大するトコジラミ被害

### 巻頭言

7月でちょうどマルマの今期56期の半分が終了しました。おかげさまで前半戦は全般的に順調に推移してきましたが、振り返ってみると、マルマの仕事が将来に渡って本当に必要とされていると実感できることがあった一方で、それが将来の足かせにもなってしまいうような状態であると実感したこともありました。

まず必要とされていると実感した話しをしますと、ちょうど1か月ほど前の新聞のことです。同じ一面に「豚コレラ」と「マダニ」と「環境の殺菌」についての記事が載っていきまして、何が必要とされていると実感したかといいますと、すべて私たちの仕事に直接つながる記事だったからです。こんな小さな業界の、それも直接仕事につながる記事が、同じ面に三つも載ることはなかなか無いことだと思いますし、私の知る限り初めてのことです。温暖化の影響などが考えられますが、今までにはなかった虫や微生物・ウイルスなどの問題が大変多くなり、それに対応する私どものような消毒や殺菌をする仕事を必要とする場面が増えてきていると感じます。このように世の中に必要とされる仕事に対応できることは、大変ありがたいことだと思っています。

しかしその反面、深刻な問題もあります。それは何度も何度も言ってきたことですが、やはり日本共通の問題である採用難です。世の中で、私たちが必要とされる場面が増えてきている中での採用難であり、更にこのタイミングでの働き方改革です。人が直接サービスを提供する仕事には、効率化にも限界があり、どうしても働いた時間がそのまま所得に反映します。最低賃金を強制的に上げて、その反面働く時間が減り、総所得は減ってしまったという人が相当いることが分かってきています。本来の働き方改革は「所得を減らさずに効率化することで休みを増やし、人生を豊かにする」ものではなかったのではないのでしょうか。休みは増えたけど所得が減ったのでは本末転倒です。自分の意思で仕事量を決めるルールを作るなど、もっと違った働き方改革があるはずですよ。

しかし結局いつも、さりとて文句を言ったところで世の中が変わるわけもなく、自分で解決していくしかないという結論になるのです。こんな状況を与えられているわけですから、感謝の気持ちをもって報いていかなければいけません。後半戦、何とかします。

(雅)

## 拡大するトコジラミ被害

トコジラミは最近、都市部を中心に相談件数が大幅に伸びている害虫です。痒みを起こすことから、ダニ類などと勘違いしやすく、対処が遅れて被害が大きくなってしまいます。今回のエムテックインフォメーションでは、ホテルや旅館業界を震撼させているトコジラミについてご紹介します。トコジラミについての正しい知識を持って、早期に発見して被害の拡大を防ぎ、予防しましょう。

### トコジラミってこんな虫

- ・ 吸血性の昆虫（カメムシの仲間）で、主に人間から吸血する
- ・ 夜行性で、暗くなると人の呼気を頼りにやってきて吸血する
- ・ 体長5～8mm、褐色の扁平な形をしており狭い隙間に集団で潜む
- ・ 動くスピードは意外と素早い。翅は退化していて飛ぶことはできない
- ・ 全世界に分布しており、日本でもホテルや旅館で被害が拡大



トコジラミ成虫  
(吸血後のため腹部が黒色)

### トコジラミによる被害

#### ・ 吸血箇所（他の虫との違い）

トコジラミ	肌が露出しているところを吸血 手足・首・顔など
ダニ類	肌が露出していないところを吸血 皮膚の柔らかい箇所（脇の下や下腹部）などが多い
ノミ類	肌が露出しているところを吸血 脚（ひざ下）に集中することが多い



※虫によって発生原因や対処方法が異なるため、原因種の特定は非常に重要です。

#### ・ 症状

主な症状は強烈な痒みや紅斑ですが、初めて吸血された人はすぐに症状が出ない場合があります、何度も吸血された後に症状が現れます。現在のところ蚊やダニのように病気を媒介することは無いと言われています。

### トコジラミの生息場所

<洋室> : ベッドの裏やフレームの隙間（写真左上）

マットレスやシーツの縁や縫い目（写真右上）

カーテンの折り目、壁にかかっている時計や絵画の裏など



ベッドヘッド



マットレス

<和室> : 畳同士の隙間や裏面や側面（写真左下）

襖や障子の縁や隙間（写真右下）

押入れの隅、座椅子カバーの内側など



畳



障子

※カバンやスーツケースなどの隙間にも潜んでいることもあり、それによって海外から日本へと持ち込まれます。

## スーパーコジラミ（薬剤耐性）

最近、被害を拡大しているトコジラミは、ピレスロイド系殺虫剤に対して非常に強い耐性を持っており、それらの個体は“スーパーコジラミ”と呼ばれています。ピレスロイド系殺虫剤は家庭用のエアゾール剤や燻煙剤などの主要な成分であることから、家庭用の殺虫剤の大半が効きにくく、それがトコジラミの生息拡大に拍車を掛けています。しかし、すべての殺虫剤が全く効かないわけではなく、業務用として使用される有機リン系やカーバメート系の殺虫剤は十分に効果があることが分かっています。そのため、トコジラミ被害がある場合には、必ず専門業者に相談して下さい。

## 駆除方法

トコジラミの駆除方法には、薬剤散布、スチーマー（蒸気加熱）処理、冷却処理、吸引処理などがあります。各処理方法によって残効性（効果の持続性）などが異なりますが、どの処理方法でも1度の駆除では卵などが残ることがあるため、通常、1週間程度の期間をあけて、2～3回駆除を実施する場合はほとんどです。

	方法	残効性	作業風景写真
薬剤散布	有機リン系やカーバメート系殺虫剤の散布による方法。 トコジラミの潜伏場所に噴霧もしくはハケなどで塗布。 残効性があるため、 <b>最も確実な駆除方法</b> 。	有り	
スチーマー処理	スチーマーの蒸気加熱で殺虫する方法。 <b>マットレスやカーペットなどの薬剤散布ができない場所に最適</b> 。残効性がないため、生き残りがいた場合に再度増加する可能性がある。作業に時間がかかる。	無し	
冷却処理	冷凍殺虫剤などによる冷却で殺虫する方法。 薬剤やスチーマー処理ができない場所に用いられる。 <b>熱に弱い製品も処理可能</b> 。	無し	
吸引処理	掃除機による吸引清掃で物理的に除去する方法。 生体を駆除すると共に、ゴミの除去によって <b>薬剤の効果が高まる</b> 。	無し	

## 予防対策

トコジラミを繁殖させないために、ホテルや旅館では常日頃から予防対策を実施することが重要です。予防対策としては、専用の調査トラップをベッド付近に仕掛けておき、定期的に確認することで、トコジラミの侵入を早期に発見できます。写真のトラップはベッドの脚部に置くタイプのものです。



**トコジラミの駆除や調査を承っています。**  
**ご要望の方は弊社までお問い合わせ下さい。**

## 害虫獣紹介

### アブラコウモリ

コウモリと言えば、洞窟のように自然によって作られ人里離れた場所に住んでいるイメージがあると思いますが、中には私たちの近くで人工的に作られた場所を好むコウモリもいます。

#### 生態

アブラコウモリはコウモリ目ヒナコウモリ科に属するコウモリで、体長は7～10cm、体重は5～10gの小さな哺乳類です。多くのコウモリは洞窟や樹洞を住処にするのに対して、アブラコウモリは換気ダクトや配管挿入孔から侵入し、人家の天井裏や倉庫の中、戸袋など人為的に作られた狭い空間を住処としています。そのため、別名イエコウモリともいいます。夜行性で、夜になると街灯照明の周りを飛び、そこに集まる蚊やユスリカなどの昆虫を食べます。



図 アブラコウモリ  
*Pipistrellus abramus*

(引用：日本ペストコントロール協会)

#### 被害

アブラコウモリは人家では天井裏などに住み着くため、天井が糞尿で汚れたり悪臭がしたりする被害を引き起こします。工場では倉庫に保管してあった製品が糞尿により売り物にならなくなることがあります。また、夜中に物音を立てることも問題となります。その他に、アブラコウモリやその糞尿は病原菌やダニ等が付いている可能性もあり注意が必要です。コウモリと言えば血を吸うイメージをお持ちの方がいると思いますが、日本には吸血性のコウモリはいません。

#### 対策

アブラコウモリは鳥類保護管理法の対象動物であるため、どのような場合でも捕獲する事はできません。そのため、主な対策は住処からの追い出しと侵入経路の封鎖などになります。アブラコウモリが住んでいると思われるところに刺激臭の強い忌避剤を使用し、出てきたところを確認し、出入り口を封鎖します。冬季は活動が鈍り出てきにくいいため、暖かい時期に対策を実施することをお勧めします。

## 食中毒情報

今月は細菌性食中毒、寄生虫、自然毒などの食中毒が発生していましたが、件数および患者数ともに先月と比べて減少していました。

細菌性食中毒の中では、ウエルシュ菌を原因とした食中毒が発生していました。この菌は、カレーや肉じゃがのような煮込み料理を食べて発生することが多い食中毒の原因菌です。十分な加熱されている食品で安全と思いがちですが、ウエルシュ菌は熱に強いいため通常の加熱では死滅せず、調理後に食品を室温で放置しておくとう菌が増えて食中毒が発生してしまいます。特に夏は室温が高いため、菌が増えやすく注意が必要です。調理後すぐに食べない場合は、素早く冷やして冷蔵保管する、食べる前に再加熱して菌を殺すなどの予防対策を実施して下さい。

### 全国食中毒発生状況 (7/16～8/14 新聞発表分等)

原因物質	事例	感染者数
ウエルシュ菌	2	59
カンピロバクター	2	5
自然毒	2	7
アニサキス	2	2
不明・その他	5	82

『ひとつ、ふたつ…快適環境を生み出します』

**MARUMA MITEC**  
株式会社 MARUMA エムテック衛生検査所

メールアドレス：info@maruma-ec.co.jp

本 社	／ 〒430-0807 浜松市中区佐藤 2 丁目 5-11 TEL：(053)464-6400 FAX：(053)465-4120	名古屋支店	／ 〒496-0027 愛知県津島市津島北新開 234-2 TEL：(0567)69-4080 FAX：(0567)69-4081
東京支店	／ 〒194-0005 東京都町田市南町田 2-15-14-402 TEL：(042)850-6454 FAX：(042)850-6456	関西支店	／ 〒658-0026 兵庫県神戸市東灘区魚崎西町 2-4-15 TEL：(078)842-6755 FAX：(078)858-6802
静岡支店	／ 〒422-8046 静岡市駿河区中島 960-1 TEL：(054)202-0210 FAX：(054)202-0220	福岡支店	／ 〒814-0161 福岡県福岡市早良区飯倉 5-10-3-102 TEL：(092)707-7810 FAX：(092)707-7870